編集後記

早々に梅雨が明けた関東甲信から西の地域にくらべ，新潟では平年の７月24日を過ぎても梅雨空が続いています。米どころとして適度な雨は必要ですが，長雨すぎて稲の生育に影響したり，河川の決壊で田んぼが冠水するのではないかと心配してしまうような昨今の天気です。

さて今号では，昨年度の日本海区水産研究所の研究成果をご紹介しました。若狭湾で漁獲されるアカアマダイは若狭グジとも呼ばれて京料理には欠かせない高級魚ですが，泥底に巣穴を作って生活するという特殊な生態も相まって生活史などに不明な点が多く，資源管理や増殖へのアプローチが十分ではありません。今回の研究で生活史の一部が解明されたことにより，持続的なアカアマダイの利用に繋がることを期待しています。

ズワイガニやベニズワイはふ化した幼生が海流によって流されてから着底することが分かっています。その海流の変動がズワイガニ属の資源変動に影響していると考えられることから，幼生の分布域や分布水温を調査しました。今回の結果等から，過去の幼生の移送をある程度シミュレートすることが可能となりましたが，今後も調査研究を進め，ズワイガニ属資源の予測が行えるよう，資源変動の要因を解明していきたいと考えています。

シオミズツボワムシ（ワムシ）は1960年代に餌料として利用され始め，その後50年以上にわたって研究開発が進められていますが，未だに解決されていない培養上の問題が残されています。今回の成果はそのうちのいくつかを解決するとともに，ワムシを利用した新たな産業の創出に関わるヒントも与えてくれるものです。今後，システムの改良等により，より効率的な培養方法の開発に取り組みます。

（日本海区水産研究所業務推進課長）

発　　行：独立行政法人水産総合研究センター

編　　集：独立行政法人水産総合研究センター日本海区水産研究所
〒951-8121　新潟市中央区水道町1-5939-22
電話：025-228-0451（代）　　FAX：025-224-0950
http://jsnfri.fra.affrc.go.jp/